

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00068

研究課題名（和文）インド伝統医学理論成立史の研究

研究課題名（英文）Study on the Developmental Process of the Traditional Medical Theories in India

研究代表者

山下 勤（Yamashita, Tsutomu）

京都先端科学大学・経済経営学部・教授

研究者番号：00319435

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）： インドとスリランカにおいてインド伝統医学書『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』（AHS）の写本を調査し、原典批判の準備を進めた。インド伝統医学の註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』（NPV）の一部の原典批判と英訳を行い、成果を論文として発表し、国際学会で口頭発表した。インド伝統医学主要文献に見られる医学用語を調査し、WHOの用語標準化プロジェクトに協力した。インド伝統医学書『チャラカ・サンヒター』やAHS、NPV等に見られる医学理論について研究を深め、成果を学会や事典で発表した。大谷大学図書館所蔵のインド伝統医学関連資料の調査と解説付き蔵書リスト作成に協力した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、インド伝統医学における医学理論の形成過程を、その文化的・社会的背景と関連付けながら探求しようとするものである。この研究の社会的意義は、インド伝統医学の医学理論がインド古来の文化的伝統に根ざしていることを明らかにし、医学の多様性と発展過程への理解を深めることにあると言える。本研究によって得られた知見は、今後の医療における文化的適応性を高めることに寄与することが期待される。

研究成果の概要（英文）： We surveyed manuscripts of the Astangahridayasamhita (AHS), a classical Indian medical text, in India and Sri Lanka, and made preparations for a critical edition. We conducted a critical study and English translation of portions of the Nirantarapadavyakhya (NPV), a commentary on Indian medicine, and presented the results in our research papers as well as at an international conference. We investigated the medical terminology found in the major Indian medical texts and collaborated with the WHO's project to standardize such terminology. We deepened our research on the medical theories found in texts like the Carakasamhita, AHS and NPV, and presented the findings at conferences and in encyclopedic entries. We surveyed materials related to Indian traditional medicine in the collection of Otani University Library and published an annotated catalogue of the holdings.

研究分野：インド学、医学史

キーワード：医学史 伝統医学 サンスクリット

1. 研究開始当初の背景

世界各地の伝統医学は、人間の心身の成り立ちや働きの仕組み、病気の原因や発生機序、病気や外傷の治療法などを、それぞれ心身論、病理論、治療論として理論化し、各文化圏に特有の医学理論として発展させてきた。インド伝統医学の医学理論は、ヴェーダ文献中にその萌芽が見られ、ニヤーヤ、ヴァイシェーシカ、サーンキヤなどインド哲学諸派の学説を部分的に取り入れながら発展し、やがて多様なインド伝統医学文献の中で体系化されるに至った。

インド伝統医学文献に見られる医学理論に関する記述を分析すると、インドの医学理論は時間の経過とともに徐々に整備され体系化されたものであろうことが推測できる。本研究では各インド医学文献の成立時期を勘案して、医学理論成立過程を次のように〔1〕形成期、〔2〕成立期、〔3〕発展期の3期に分けることとする。

〔1〕形成期：紀元6世紀頃までの成立とされる『チャラカ・サンヒター』と『スシュルタ・サンヒター』という2大医学全書では、医療の理論的枠組みの中核をなすドーシャ説に関して、各章ごとに記述のばらつきや精粗の差が見られることなどから、この両書成立の時期は、インド伝統医学理論は全体として形成途上にあると言える。

〔2〕成立期：紀元7～8世紀頃の成立とされる『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』と『アシュターンガ・サングラハ』では医学理論の整合性が高まり、ドーシャ説と他の理論との関連付けも明確になることなどから、インド医学の理論的枠組みはこの時期にはほぼ完成したものと考えられる。『チャラカ・サンヒター』に対する現存最古の註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーカー』は医学理論の記述内容から、この時期の成立と見られる。

〔3〕発展期：インド医学理論は人々の健康維持や疾病や外傷の診断・治療に応用され吟味されつつ徐々に修整、整備され、薬物・薬草の新発見や治療法開発など新たな医学知識の蓄積もあり、紀元10世紀以降の医学文献では包括的に体系化された医学理論が見られるようになる。この時期の医学文献は数多いが、代表的な文献として小児科書『カーシャパ・サンヒター』、医学全書『パーヴァ・プラカーシャ』、臨床治療書『シャルンガガラ・サンヒター』を挙げることができる。さらに医学理論の精緻化に関しては『チャラカ・サンヒター』への11世紀の註釈書『アーユルヴェーダ・ディーピカー』など註釈文献群も大きな役割を果たした。

本研究代表者(山下)はこれまでインド医学理論の上記〔1〕形成期の文献を中心に研究を続けてきたが、本研究では視点を換え、医学理論の〔2〕成立期の文献を中心に、〔1〕形成期と〔3〕発展期の諸文献との関係を考慮しつつインド伝統医学理論成立史の一端の解明を目指すこととする。

2. 研究の目的

インド伝統医学文献を医学理論の発展史の観点から詳細に読解・比較検討することによって、インド文化に特有の自然観や人間観を反映したインド伝統医学理論の全体像を把握し、その形成・発展経過を明らかにすることが本研究の主目的である。しかしこれまでのところいずれのインド医学文献に関してもテキストの原典批判が充分とは言えないため、本研究ではまずインド医学文献の版本と写本資料の調査・複写収集を行った上で、これら文献資料を用いた文献学的研究を行い、その成果に基づいて医学理論の研究を進めることとする。またインド医学文献を正確に読解することを目的として、現在のインド伝統医療の現場で用いられている医学理論に関わるサンスクリットの医学語彙を調査し、意味と用法について検討する。

3. 研究の方法

(1) 主な研究対象文献：インド医学理論 成立期のサンスクリット医学文献のうち次の2書

・医学全書『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』(AHS)

・『チャラカ・サンヒター』の註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』(NPV)

AHSの作者は紀元7～8世紀頃のヴァーグバタであり、NPVの作者ジャッジャタは彼の弟子とされる。そのためAHSとNPVは成立時期が近いと考えられるが、記述内容には相違点が多く、比較研究対象としてもこの両書を取り上げることに意味があると考えられる。

(2) 研究項目：以下の4項目の調査・研究を行う。各研究年度とも4項目全てを漸次行う。

AHSの写本資料収集と原典批判

本研究代表者(山下)がこれまでに収集した10数種のAHS写本資料の調査によりAHS出版本には収載されていないテキストの異読が数多く認められた。このことから、現行AHS出版本の原典批判は不十分であると言える。そこで本研究では、まず既に入手済みのAHSの版本と写本資料を改めて精査し、テキスト全体を概観した後、原典批判を進める。さらに未入手の写本資料の収集を進めることとする。

NPVの原典批判とサンスクリットから英語への翻訳

AHSとほぼ同時期に成立したと見られる註釈書NPVについて本研究代表者(山下)は既に本研究協力者Kenneth Zysk教授(コペンハーゲン大学)と共同で原典批判と英訳を行っている。本研究でもこれを継続し、医学理論成立に註釈文献NPVが果たした役割について検討する。また『チャラカ・サンヒター』への他の註釈書とNPVとの比較も行い、『チャラカ・サンヒター』本文解釈の変遷と医学理論成立との関係について考察する。

医学語彙に関する調査・研究

インド医学文献に見られる医学理論や治療についての専門用語(薬物・薬草名も含む)は、文献研究だけでは理解できず、実際の医療行為を観察してはじめて理解できるものが多い。そのため、インド・ケーララ州の伝統医学診療施設などにおいて伝統医療の現場を観察し、その記録を分析して、サンスクリットの医学語彙の用法と意味の確認を行い、より正しい文献理解のための参考資料を作成する。

医学理論とその成立史の研究

上記～の成果に基づき、AHS第1巻第11～14章に見られる医学理論成立期のドーシャ説を中心とする心身論を註釈文献とともに精読し、他の医学文献に見られる医学理論と比較しつつ、インド伝統医学文献における心身論の意味とその成立過程について考察する。またNPV第6巻第2～3章の精読・英訳を通して特定疾患の病理論と薬剤選択法など治療論に関して詳細を把握し、病理論と治療論の関係およびそれぞれの成立史を考察する。以上～を総括し、インド伝統医学理論の全体像を明らかにする。

4. 研究成果

上記(2)研究項目～およびその他の研究項目の成果は次の通り。

AHSの写本資料収集と原典批判

本研究期間は、いわゆるコロナ禍の時期と重なっていたため、当初予定していたインドなどでの現地調査は2018～2019年度のみ可能であったが、この間にインド・アーメダバード、ジャムナガル、スリランカ・コロンボでAHSの写本資料の調査を行った。このうち特にスリランカ・コロンボ国立博物館では、これまで学界に報告されたことのないAHS全巻の写本の写真撮影を行

い、写本内容の調査を進めた。2020 年度以降は、これら写本資料の解析を進め、原典批判の準備作業を行い、その成果の一部を国際学会で発表した。

NPV の原典批判とサンスクリットから英語への翻訳

本研究協力者 Kenneth Zysk 教授（コペンハーゲン大学）と共同で NPV の原典批判と英訳を行い、その成果の一部を学術論文として出版し、さらに国際学会で口頭発表した。

医学語彙に関する調査・研究

インド伝統医学の代表的な医学全書『チャラカ・サンヒター』、『スシュルタ・サンヒター』、『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』(AHS)、『アシュターンガ・サングラハ』、『ベーラ・サンヒター』に見られるサンスクリットの医学専門用語に関して調査を進めた。この調査の過程で、WHO(国際保健機関)の「インド伝統医学用語標準化プロジェクト」(The Standard Terminology of Ayurveda, Unani, and Siddha System of Medicine)から協力要請があったため、このプロジェクトに参加し、その成果の一部を 2022~2023 年度にインターネット上で公開した。

医学理論とその成立史の研究

上記 AHS と NPV を主とし、さらに他のサンスクリット医学全書である『チャラカ・サンヒター』、『ベーラ・サンヒター』、『アシュターンガ・サングラハ』と『チャラカ・サンヒター』への註釈文献『アーユルヴェーダ・ディーピカー』の医学理論について解明を進め、その成果の一部を国際学会で発表し、さらに『医学史事典』および Oxford Manual の記事において解説を行った。

その他

本研究の当初の予定にはなかったが、中国医学史に関する研究グループ(京都)と協力し、大谷大学図書館に収蔵されているイギリスのインド学者 アウグスト・フリードリヒ・ルドルフ・ヘルンレ (August Friedrich Rudolf Hoernle 1841~1918) の旧蔵書の調査を行い、解説付きの蔵書リストを出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 三鬼丈知、島山奈緒子、山下勤 他	4. 巻 116
2. 論文標題 大谷大学ヘルンレ文庫目録（最終回）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『醫譚』（日本医史学会関西支部）	6. 最初と最後の頁 10236-10264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三鬼丈知、島山奈緒子、山下勤 他	4. 巻 115
2. 論文標題 大谷大学ヘルンレ文庫目録（2）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『醫譚』（日本医史学会関西支部）	6. 最初と最後の頁 10489-10521
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三鬼丈知、島山奈緒子、山下勤、他	4. 巻 114
2. 論文標題 大谷大学ヘルンレ文庫目録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『醫譚』（日本医史学会関西支部）	6. 最初と最後の頁 10013-10030
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Zysk Kenneth G.、Yamashita Tsutomu	4. 巻 13
2. 論文標題 Sanskrit Medical Scholasticism II, Jajjata's Nirantarapadavyakhya and Other Commentaries on the Carakasamhita, Cikitsasthana 2.2.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 eJournal of Indian Medicine	6. 最初と最後の頁 1~68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21827/ejim.13.1.38283	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Kenneth G. Zysk and Tsutomu Yamashita	4. 巻 Vo.10, No.1
2. 論文標題 Sanskrit Medical Scholasticism, Jajjata's Nirantarapadavyakhya and Other Commentaries on the Carakasamhita, Cikitsasthana 2.1.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 eJournal of Indian Medicine	6. 最初と最後の頁 1-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21827/5c3f01174756c	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Tsutomu Yamashita and Kenneth G. Zysk (University of Copenhagen)
2. 発表標題 Carakasamhita Ci 2.3.3-5 and its Commentaries.
3. 学会等名 A Joint Research Meeting of the Sushruta Project and the Classical Ayurveda Text Study Group (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kenneth G. Zysk (University of Copenhagen)、Tsutomu Yamashita (KUAS)
2. 発表標題 Sanskrit Medical Scholasticism. Readings from the Carakasamhita: Cikitsasthana 2.2 with Jajjata's Nirantarapadavyakhya and other commentaries. Part 1
3. 学会等名 Consortium for History of Science, Technology and Medicine. History of Science in Early South Asia Section (オンライン開催) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenneth G. Zysk (University of Copenhagen)、Tsutomu Yamashita (KUAS)
2. 発表標題 Sanskrit Medical Scholasticism. Readings from the Carakasamhita: Cikitsasthana 2.2 with Jajjata's Nirantarapadavyakhya and other commentaries. Part 2
3. 学会等名 Consortium for History of Science, Technology and Medicine. History of Science in Early South Asia Section (オンライン開催) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenneth G. Zysk (University of Copenhagen)、Tsutomu Yamashita (KUAS)
2. 発表標題 Sanskrit Medical Scholasticism. Readings from the Carakasamhita: Cikitsasthana 2.2 with Jajjata's Nirantarapadavyakhya and other commentaries. Part 3
3. 学会等名 Consortium for History of Science, Technology and Medicine. History of Science in Early South Asia Section (オンライン開催) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tsutomu Yamashita
2. 発表標題 Anatomical Knowledge in Sanskrit Medical Texts.
3. 学会等名 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya at University of Kyoto on 3rd Aug. 2018. (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 日本医史学会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 807
3. 書名 『医学史事典』(項目執筆:「仏典(仏教経典)の中の医学」、「アーユルヴェーダ(インド伝統医学)」)	

1. 著者名 World Health Organization	4. 発行年 2022年
2. 出版社 World Health Organization	5. 総ページ数 588
3. 書名 WHO international standard terminologies on ayurveda. (項目執筆)	

1. 著者名 Paul T. Keyser (ed.), John Scarborough (ed.), Jens Hoyrup, Francesca Rochberg, Joann Scurlock, Annette Imhausen, Joachim Friedrich Quack, Rosalie David, Toke Lindegaard Knudsen, Tsutomu Yamashita, Alexei Volkov, Xu Fengxian, et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 1064
3. 書名 The Oxford Handbook of Science and Medicine in the Classical World. (Chapter A3b: India and Sanskrit, Sanskrit Medical Literature)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

WHO international standard terminologies https://www.who.int/publications/i/item/9789240064935

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ジスク ケネス (Zysk Kenneth G.)	コペンハーゲン大学(デンマーク)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
デンマーク	University of Copenhagen			
その他の国・地域	WHO (World Health Organization)			